



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

96.8.5 No. 4443.

幕電当局は謝罪せよ!

幕張支部が職場集会開催!

八月一日、幕張支部は、職場集会を開催した。集会には、五〇名近くの組合員が参加した。冒頭石幡支部長が、「この間、区当局は重箱の隅をつつくような監視体制を敷いている。行方首席は、構内をうろつき、作業着が違ふだの、歩いている時でもヘルメットのあごひもを閉めるだの業務とは直接関係ないことまで監視している。しかし当局は、二月より始めた塗装業務において違法行為を行った。七月一六日と二二日の安全衛生委員会において、『今回の有機溶剤問題の中止に至った経過や反省点を労使で話し合う場を設けて欲しい』旨審議を求めたが、区長は、『安全衛生委員会は、現協ではない。現場で組合と話す場はない。』との態度である。締め付けばかりに終始している区当局が、自分のミスにほうかむりしていることは問題だ。きょうは率直な意見を交換していきたい。」と問題提起した。

ハラを据えて頑張る時がきた!

続いて布施副委員長が、

① 来る予定ではなかった行方が首席として幕張にきた。業務に精通していないから監視だけを行い、それだけが仕事になっている。分割・民営化の過程でそんな管理者が出世するという不幸な状態だ。

② 有機溶剤は、貨車の塗装で有機溶剤を使用する新小岩工場の移転に際し、条令で学校等が近くにあると工場が移転出来な

いと貨物でも問題になった。それを幕張では当局が塗装を直営でやらせた方が経費節減になると安易な発想から始めたが、有機溶剤規則があることすら知らなかった。しかし区当局は、危険作業を行わせたことについて開き直り、謝罪しない。

③ 当局・JR総連が全国唯一の動労千葉と国労しかいない職場幕電区を解体しようとしていることは明らかである。七月、東京のペンディング職場で国労三六〇名中二三三名が処分された。裏面監査に対して抗議したら処分という内容だ。行方がやっているようなことが理由となつていく。しかし、行方のいうことを聞いていたら職場は良くならない。ハラを据えて頑張る時だ。これからは職場討議を重ねて全体で闘う体制を作っていく。

① 運転士登用の見直しは? ② 一昨年から検修三区でぐるぐる回しの配転が強行され、昨年の配転から動労千葉の組合員も対象となつている。不当な配転に対し、反撃をしていかなければならない。

支部組合員の団結を恐れているのは当局だ。当局の不当な対応に対し、反撃しなければ、安全と生命すら守れない。この間の状況を総括し、一層の団結を固めることを誓い合った職場集会となった。

断末魔の危機!!

第三次労使共同宣言!

今、各職場に「第三次労使共同宣言」と題した掲示が張りだされている。これは、七月一日にJR東日本とJR東労組が締結したものだ。労使共同宣言は、「JR東労・革マルの「奴隷の誓い」だが、出されるたびにその内容はどんどん異様なものにエスカレートしている。今回の第三次宣言から透けて見えるのは、JR総連の断末魔の危機である。実際、JR東労自身が、次のように述べている。「今次宣言は決してこれまでの単なる延長上にあるのではない」「わが労使をターゲットにした悪辣な攻撃が益々エスカレートしている」「わが労使関係の破壊を狙った様々な攻撃は激しさを増している」から、この労使共同宣言を締結しようのだ。

ところで、JR総連が、「外部干渉し労使関係の破壊を狙う部隊」として主張しているのは、彼らの機関紙などから拾えば、「国家権力内謀略部隊」に始まり、「国労」「千葉労」「葛西・井出」「亀井」「グリーンユニオン」「JR連合」「悪質週刊誌」「中核派」……、というのだ。要するに、味方はJR東日本経営陣だけで、後は世の中の全てが敵だということだ。だからこそ、「一切の外部干渉・介入を排除する」などという危機感に満ちた労使共同宣言をせざるを得なかったのである。

一方、JR東労組の大会で総括答弁にたった書記長島田は、「辞任」した管家委員長や、処分した副委員長以下の執行部に対して、「人とも言えないようなエイリアンのような奴らだった」と口汚く罵ったが、少なくとも、自分たちが委員長や副委員長に据え、昨日までその職にあった者に対してここまで言わざるを得ないところに、崩壊の淵にたつJR東労の現実を見てとることが出来る。今こそ危機にたつJR総連を解体しよう!